

巡検・セミナー開催のご案内

第1回セミナー「近代民間地図発達史」

日時：11月23日（土・祝）9時30分・現地集合
場所：小江戸蔵里つどい処（ギャラリー）（川越市新富町1-10-1 TEL.049-228-0855）
講師：辻野民雄氏（カートグラフィックアナリスト・地図之研究室）
参加費：1,000円（資料、ミニ巡検レジャー保険含む）

第3回巡検「成増・赤塚巡検」

日時：12月7日（土）荒天時順延
集合：東武東上線「成増駅」改札外（改札は1か所）南口 9時50分
ご案内：紅露和夫氏（株東京印書館）
ルート：成増駅→氷川神社→成増厚生病院前成増

「第4回株中央ジオマチックス見学と浮間の水塚散策」

主催：日本地図学会 例会 地図関連会社の訪問と見学
共催：（一財）地図情報センター
日時：12月6日（金）
集合：JR埼京線北赤羽駅浮間口（大宮側）改札外側午後1時00分（昼食は済ませてから集合して下さい）
ルート：浮間の水塚散策：JR埼京線浮間舟渡駅、及び、株中央ジオマチックスへ。
会社訪問のみの集合：株中央ジオマチックス本社前 午後2時50分

第2回巡検「川越市内ミニ巡検」（同日午後）

ご案内：伊藤 等氏（日本大学）
ルート：小江戸蔵里前広場→川越街道→鉤の手→松江町交差点右折→疱瘡の神様→成田山川越別院→喜多院→仙波東照宮→舟運亭（戸田製麺）→中院→光西寺→川越街道・クレアモール→西武本川越駅・東武JR川越駅を予定。
参加ご希望の方は11月15日まで地図情報センター（ICIC）にご連絡下さい。

露頭跡→区立郷土資料館→不動の滝→昼食（予定：大仏そば 萬吉禎）→松月院→東京大仏→区立赤塚植物園→成増駅を予定。

解散：成増駅15時頃（予定）
参加費：1,000円（資料、レジャー保険他）
参加ご希望の方は11月27日までICICにご連絡下さい。

ご案内：向山潔氏（株中央ジオマチックス）
巡検後、株中央ジオマチックス見学。午後3時00分から午後5時00分頃までを予定。

内容・会社概要の説明
・コンピュータ利用による新しい地図作りの解説
・作製した地図類を拝見
・今後の地図作りの課題などについて質疑応答
・大型印刷機など機器の見学。
解散：現地：午後5時頃（最寄り駅はJR埼京線浮間舟渡駅、都営地下鉄三田線蓮根駅）
参加費：200円（予定・レジャー保険充当）
参加ご希望の方は11月中旬日まで日本地図学会事務局（03-3485-5410）までご連絡下さい。

mini地図NEWS



ズームができる紙マップ「map²」

ロンドンのデザイナーAnne Stauche氏が制作したのは、海外旅行などで役に立ちそうな新しいアイデアの紙マップ「map²」。1/4ずつに折り紙のように折り曲げられたmap²を広げると、その部分のクローズアップした地図が確認できるというもの。スマホマップのように必要なエリアだけを直感的に「ズーム」して使うことができます。

現在、ロンドンとベルリンの地図があるそうで、クラウドファンディングkickstarterで他の地図制作の支援を募りましたが、目標金額に届かずに終了とのこと。

ポケットマップだけではなく、ガイドブックの地図にも応用がききそうですね（出典：roomie）。

地図絡み

第55回 雲上の遊歩道／五合目・御庭・大澤崩れ

帝京大学理事 井口悦男

富士山中腹、2千数百メートルの高さに、独自の広々とした緩やかな火山灰に蔽われた、火山斜面と、森林限界とが織りなす自然の合作を、じつに気軽に現代文明を代表する道路と車とにより、大都会からその気になれば誰でも、短時間で清らかな空気のなかにいられる。

「富士スバルライン」有料自動車道終点の「五合目」は富士山北側の観光拠点代表として、広大な駐車場をもつ土産物店、食堂に止まらず宿泊所も含まれる巨大特定集落である。

一方、ここはスバルラインを河口湖町から上るにつれ、正面山肌に富士の傾斜そして林相と異なる、山の山頂近くが僅かに突きだしていることに気づく。富士より古い「小御岳」であり、五合目に軒を揃えた店々の間を一步入ると「小御岳神社」の別空間が、元来の場所と教えられる。

ここから東に向くと「吉田口登山道」と合わせり山頂へのコースとなる。反対に、スバルラインと平行する火山灰の細道は、「御庭」「奥庭」方面への散策道で、元を正せば修験道の「御中道」にあたる。2300～2600mの富士一周道として開かれた。そのごく一部「御庭」まで3km足らず、さらに「奥庭」まで1km足らず、緩やかな斜面の浅い沢で僅かに上下する平らな、小砂利のような灰色の穴明き軽石続きの裸地と、低目の森地とが交互に表われる山腹道で、登山気分から遠い。しかし、見上げれば、ゴツゴツした山頂、丸い気象観測ドームが手に取れるように近くに望めた。いくつも気軽に上下し渡った沢は、時には積雪の表層ナダレ(雪代)の通り筋となり、現代道路を軽く消し去ることもある(92.12発生)

「御庭」はその名のように、風と森林限界との影響で、

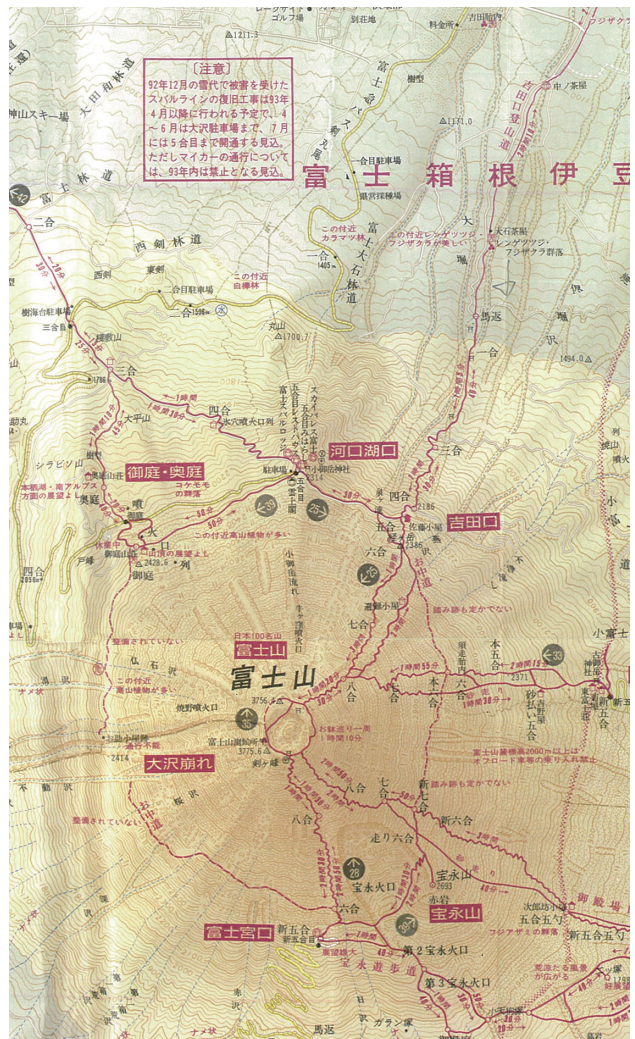


御庭からの富士山 (blog 富士山大好き～写真は最高!より)

まばらに屈曲見事な木々が点在する空間である。それに小火口列の楽しい観察地が加わる。「奥庭」は「御庭」より少々降った、スバルライン下に広がる「御庭」より木々が茂る、やはり低木地で、小さな湧水池があり、小鳥の水呑み場となり、観察者も集う。一般的には、ここから元の五合目に戻るか、奥庭のバス停から乗るかである。

もう少し先に、西から南に3kmほど行くと、有名な「大澤崩れ」をこの目で知ることができる。ご承知のように、富士山最大の浸食谷で、常時大小の落石発生地のため、大分前から「通行禁止」となり、現在御中道は循環していない。禁止前通過したことはあるが、前後の平滑な火山灰道が、ここだけ浸食のため山肌の中身が顔を出し、巨石が重なり、そのため通過道は、浸食谷筋を大分下がって渡りやすい所を選んでしたが、落石は所を選んではくれない。

静かな山中のこの遊歩道も、少しばかり行く先を変えようと動にも接しられて、自然の荒々しさに畏敬が求められる。(13.10.19)



エリアマップ 山と高原地図18「富士・富士五湖」1:6万を約60%縮小。調査執筆 小川孝徳 昭文社。発行年度明記せず。ただし雪代害92.12の復旧を93.4以降とする注記から19931～3間発行か。